

「喜びを種まいて下さる主」

(詩篇 97 の 10～11)

主を愛する人は悪を憎む。主の慈しみに生きる人の魂を主は守り  
神に逆らう者の手から助け出してください。  
神に従う人のためには光を  
心のまっすぐな人のためには喜びを  
種蒔いてください。

The LORD loves those who hate evil; he guards the lives of his faithful; he rescues them  
from the hand of the wicked.

Light is sown for the righteous, and gladness for the upright in heart.

主を愛するとは、真実や正しいこと、清いものを愛すること、それゆえに、そうした真実なものを破壊し、踏みにじるようにさせる悪(悪人でなく)を憎む。

主イエスは、敵を憎む(目に目を、歯には歯を)、という従来からの考え方を根本から転換させて、敵(自分に悪をしかけてくる者)を愛し、敵のために祈れ、と言われた。

それはそのような人を好きになれ、というのではない。好きとか嫌いといった感情は問題にされていない。主イエスが言われたのは、悪しきことをさせているのは、その人の内に宿る悪の霊であり、それゆえにその悪の力(霊)が追いだされるように祈れ、ということである。

イエスが最初に弟子たちを派遣するとき、何を目的とされたのだろうか。それは、悪の霊を追いだすということであった。悪人のうちから、悪の霊(力)を除き去ることができれば、どんな人でも善き人になる。だから、そのように祈れ、と言われたのである。

そこには、感情に動かされず冷静に真相を見つめるまなざしがある。その人の言動だけにとらわれていたら悪しき人を嫌い、憎むことになる。しかしさらにその目に見える言動の奥にある、目に見えない悪の力を見据えるときには、その悪を排除することこそ、肝心なことだと知らされる。そしてそのような奥深いところにある悪の根を、私たちの力で除き去ることは到底できないゆえに、主イエスは、そのことを神に祈れ、と言われたのであった。主は、つねにこうした事柄の最も深いところにある問題を見つめておられた。

神は、種まきをされるお方である。全世界の至るところにさまざまな動植物も、すべて神が種を蒔かれ、支え、生きていくに必要なさまざまな仕組みをも与え、はぐくんでおられるのである。

さらに、神は私たちの心にも種まきをされる。私たちが神を仰ぎ、従おうとするとき、神は私たちの心に光と喜びを種蒔いて下さるといふ。

人間は、何かをもらったり、ほめられたり、ものごとがうまくいったら喜びは自然に出てくるのであって、神などと関係はない、と思う人が大多数であろう。

しかし、ここで言われているのは、そのようなことが何もないような悲しみや苦しみのときであっても、私たちが真剣に祈り求めるなら、そこに神は最もよきもの、いのちの光を種蒔いて下さる。それに伴って喜びをも種蒔かれる。そうすると、そこから芽が出て、善きものが育つようにされるということである。この世の喜びや楽しみからはしばしば高ぶりとか罪への芽が伸びてくる。しかし、神から蒔かれた光と喜びは、永続的なよきものがそこから芽を出してきて、成長してよき実を結ぶようにと導いて下さる。

### エゾフウロ (フウロソウ科)

北海道(積丹半島の南西約 40 キロの日本海岸)  
2009.7.15

この花は、北海道 積丹半島の南西 40 キロほどの日本海岸の崖上で咲いていたものです。毎年夏の北海道 瀬棚地方の聖書集会に行く途中の海岸で今夏、初めて見出した花です。これは、フウロソウ科の花で、この仲間は、日本の野山でいろいろ見られ、白山(標高 2702m)など高山にあるハクサンフウロ、伊吹山(1377m)にもみられるヒメフウロなどもその仲間です。

徳島県の剣山(1955m)では夏にシコクフウロという花が、だいたい 1500 メートル以上の高さで、サラシナショウマやメタカラコウなどとともに見られます。また、平地

でも昔から薬草として有名なゲンノショウコもこのフウロソウの仲間です。

ここにあげたエゾフウロは、千島、北海道や東北地方、本州の高山などにみられる紅色の美しい花です。

この写真のものは、岩が露出する荒々しい海岸の崖の上でのその姿が印象的でした。このようなところは、いつも強い潮風にさらされるうえ、冬になれば大陸からの風雪の激しいところで、生育環境のとくに厳しいにおいて、このような可憐な花が咲くのは、驚かされます。このような花の美しさは、こうした厳しい環境のゆえにいつそう強く感じられるものです。

こうした厳しさのなかの美というものは、さまざまの苦しみや悲しみを、信仰によって乗り越えてきた人の持つ、内的なそして霊的な美しさに通じるものがあります。それは、生まれつきのものでなく、神によって表情に刻まれていった美しさと言えます。

神の創造物であるがゆえに、自然はこのような繊細さと、厳しき、力強さとが深く溶け合って存在しています。神ご自身がそのようなお方だからです。そのことは、人間にも、そのような状態が可能であることを暗示しています。(文、写真とも T.YOSHIMURA)

